

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

次期患者体験調査と Web 調査に関する研究

研究分担者 脇田 貴文 関西大学 社会学部 教授

研究協力者 渡邊ともね 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部 研究員

研究協力者 山元遥子 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部 研究員

研究協力者 角和珠妃 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部 研究員

研究要旨：患者体験調査に関して、1) 前回調査と次回調査の比較、2) 郵送調査と Web 調査の回答行動や回答時間等を比較検討のためのデータ収集を行った。同一人物に対して同じ内容の質問をしているにもかかわらず、その一致率は9割に満たず、高いとは言いつらい結果となっており、Web 調査を導入するかといったことはこの一致率が、偶然誤差によるものと言えるのか一定のバイアスがあるのかといったことも含めて慎重に検討する必要があると考えられる。

A. 研究目的

本年度は、前年度までの患者体験調査の検討を踏まえて、次期患者体験調査の項目作成及び、前回調査との比較を行うことを第1の目的とした。

また、国勢調査等でもインターネット調査（Web 調査）方式が用いられているように、患者体験調査に関しても Web 化を行うことも考えられる。しかし、回答モチベーションの違いや、回答方式に対する慣れなど、前回までの郵送調査、紙筆調査と同様とは言えない可能性がある。そこで、この検討を第2の目的とした。

B. 研究方法

インターネット調査会社に調査を委託し、がん患者およびがん患者の家族を対象とした。第1の目的に関しては、インターネット調査を用いて、500名に対して、約1ヶ月の間隔を空け、前回調査と次回調査への回答を求めた。前回調査と次回調査の回答順に関してはカウンターバランスをとった。第2目的については、100名の調査パネルに対して郵送調査を行うことの同意を得た後に、約1ヶ月の間隔を空け、郵送調査と Web 調査に回答を求めた。こちらもカウンターバランスをとった。

Web 調査に関しては、Web 調査システム Creative Survey を用いて調査画面を作成、データ収集を行った。

（倫理面への配慮）

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究倫理審査委員会の承認を得た。

C. 研究結果

1. Web-郵送調査

一部への参加を含め 222 名が調査に参加した。

両方の調査に参加しており、生年、性別、がん診断の有無が一致する回答者(144名)のうち、がんの診断があった 137 名を最終解析対象者とした。患者本人が調査に回答した割合は 90.5%、男性の割合は 56.2%、平均年齢は 61.2 歳(SD=11.7)だった。Web/ 郵送調査の回答一致率は平均 87.5% (SD=15.8)だった。一致率が低かった設問は問 29 全体評価 40.9%、問 40 家族の相談 45.2%、問 52 家族以外への負担、迷惑 48.9%だった。

2.Web-web 調査

一部への参加を含め 1257 名が調査に参加した（回収率 %）。両方の調査に参加しており、生年、性別、がん診断の有無が一致する回答者(767名)のうち、がんの診断があった 739 名を最終解析対象者とした。回答一致率は平均 86.2% (SD=18.3)だった。一致率が低かった設問は問 40 家族の相談 45.7%、問 29 全体評価 47.4%、問 59 身体的苦痛 48.2%だった。Web-郵送調査同様主観的な内容を問う設問で一致率が低い傾向があった。また、第2回調査票ではリッカート形式、第3回調査票では多選択肢形式で提示した設問も一致率が低かった。

D. 考察

同一人物の調査繰り返し調査をしたものであるが、その回答の一致率は、9割に満たず高いとは言えない状況であった。特に主観的に「そう思うか」という質問に対する回答は、一致率が低くなる傾向にあり、可能な限り主観ではなく、具体的な出来事についての質問をすることが必要と考えられた。これらの一致率は、完全な一致の割合というだけではなく、それぞれの質問の指標としての回答割合を算出した時にも 5%程度の差が出ること

があった。

紙筆調査と Web 調査の比較に関しては、Web 調査の場合、当該項目の回答以前の回答内容を元に、呈示する項目や選択肢を変化させることが可能である。これにより、回答者の回答負担が軽減されると考えられる。

一方で、回答モチベーションや回答方法の慣れに関しては、今後より詳細な分析が必要である。

E. 結論

次期患者体験調査に関しては、郵送調査、Web 調査のメリット・デメリットを吟味した上で実施することが必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

1. Yuichi Ichinose, Tsutomu Toida, Tomone Watanabe, Takafumi Wakita, Takahiro Higashi. Comparing the Advanced Cancer Patient Experiences of Three vs. Six Years after Diagnosis in Japan. International Conference on Health Policy Statistics 2023 年 1 月

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし